

学術論文のOA化に 対する市民の需要

佐藤翔、数間裕紀、逸村裕

目次

1. はじめに: 研究背景と目的
2. 調査方法
3. 結果
4. まとめと今後の展望

目次

1. はじめに: 研究背景と目的
2. 調査方法
3. 結果
4. まとめと今後の展望

オープンアクセス(OA)とは

- インターネットを通じ
- 学術論文を
- 誰もが
- 自由に利用できる

OA論文の増加

- 生命医学分野：2009年の論文の50%以上はOA¹⁾
- 日本の機関リポジトリ収録文献：81万件（2011年4月時点）²⁾

主なターゲットは研究者同士



研究者だけではない？



市民にとってのOAの意義

- Zuccala (2009)³⁾:
 - 税金の使途を知る納税者の権利
 - 医療研究の理解、情報入手
 - 好奇心の充足・自己改善

市民のOA需要研究(1)

- 酒井 (2011)⁴⁾:
 - 日本 of 男女1,200人に質問紙調査
 - 回答者の48.9%は、必要なら、日本語・医学論文を読みたい
 - うち26.8%は「無料なら」読みたい

市民のOA需要研究(2)

- Zuccala (2010)⁵⁾:
 - オランダ在住一般市民23人にFGI
 - 個人的な問題解決にOA論文を求めている、特に医療問題
 - 医学・心理学に関心
 - 化学、物理学、数学は関心が低い

市民のOA需要研究(3)

- 一般市民も論文OA化に需要
- 欲しいのは医学分野

でも「一般市民」
って、誰？

「一般市民」って？

- 「研究者ではない」人
- 多様な職業、年齢、性別
- ひとまとめに語れるのか？

本当に医学だけ？

- 医学分野以外を対象にしているのはZuccalaのみ
- 他分野への関心についての調査がもっと必要では？

本研究の目的

- 日本のも一般市民のOA需要を調査
- 性別、年齢、学歴、職業等の属性を考慮
- 市民の論文OA化需要について、より詳細に明らかにする

目次

1. はじめに: 研究背景と目的

2. 調査方法

3. 結果

4. まとめと今後の展望

調査対象

- 研究者・学生を除く20歳以上の日本に住む男女：800人
- 研究者：大学、研究所、企業所属の研究職＋博士後期課程在籍経験者
- 学生：学部生＋大学院生＋その他の学生

調査方法

- マクロミル社による インターネット調査
- 事前登録されたモニタのうち、条件に合致するものに回答を依頼
- 事前に設定した回答数(800人)に達した時点で回答を打ち切る

サンプルの割付

	大卒以上、 定職	大卒以上、 不定・無職	大卒以外、 定職	大卒以外、 不定・無職	計
20-29歳	75	25	75	25	200
30-49歳	150	50	150	50	400
50歳以上	75	25	75	25	200
計	<u>300</u>	<u>100</u>	<u>300</u>	<u>100</u>	800

回答方法

- メールで回答依頼
⇒ 回答フォームに誘導
- 調査実施時期: 2010.9.25-26

主な質問項目

- OAの認知度
- OA論文の利用経験
- OAに対する需要
 - 自分にとって役立つ／役立たない
 - そう思った理由
- OA化に興味のある分野

目次

1. はじめに: 研究背景と目的
2. 調査方法
3. 結果
4. まとめと今後の展望

結果

3.1 回答者の属性

3.2 OA認知とOA論文利用経験

3.3 OAに対する需要

3.4 OA化に興味のある分野

結果

3.1 回答者の属性

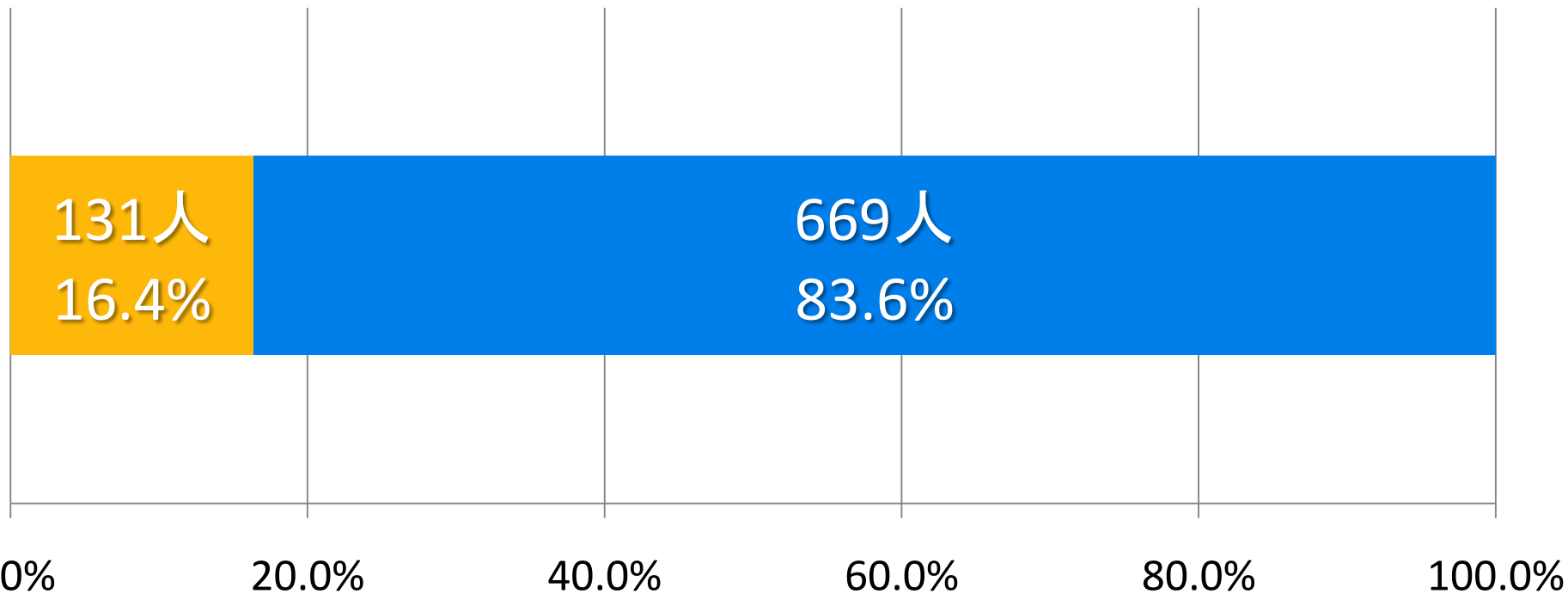
3.2 OA認知とOA論文利用経験

3.3 OAに対する需要

3.4 OA化に興味のある分野

OA認知：全体

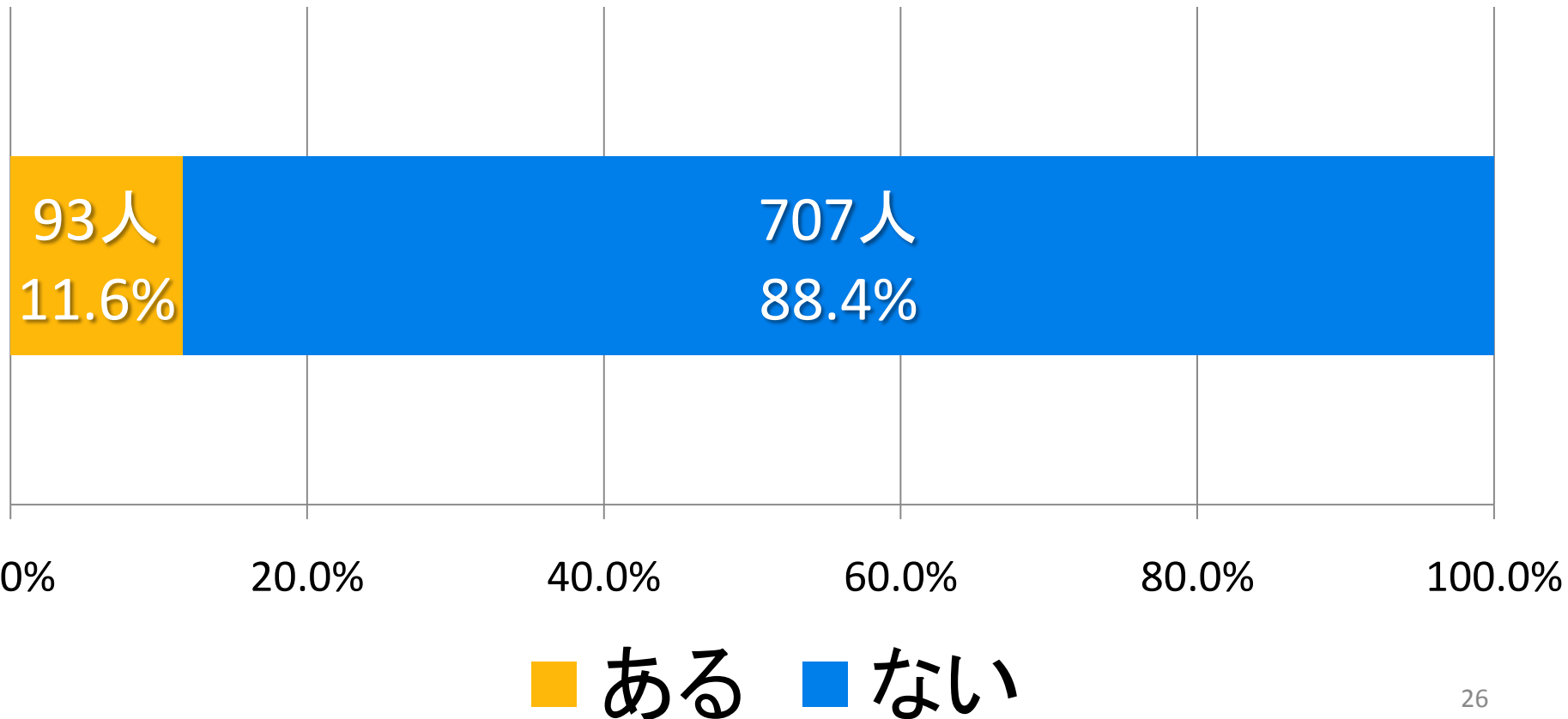
Q. オープンアクセスという言葉を知っていましたか？



■ 知っていた ■ 知らなかった

OA論文利用：全体

Q. オンライン上で無料で公開された学術論文を読んだことがありますか？

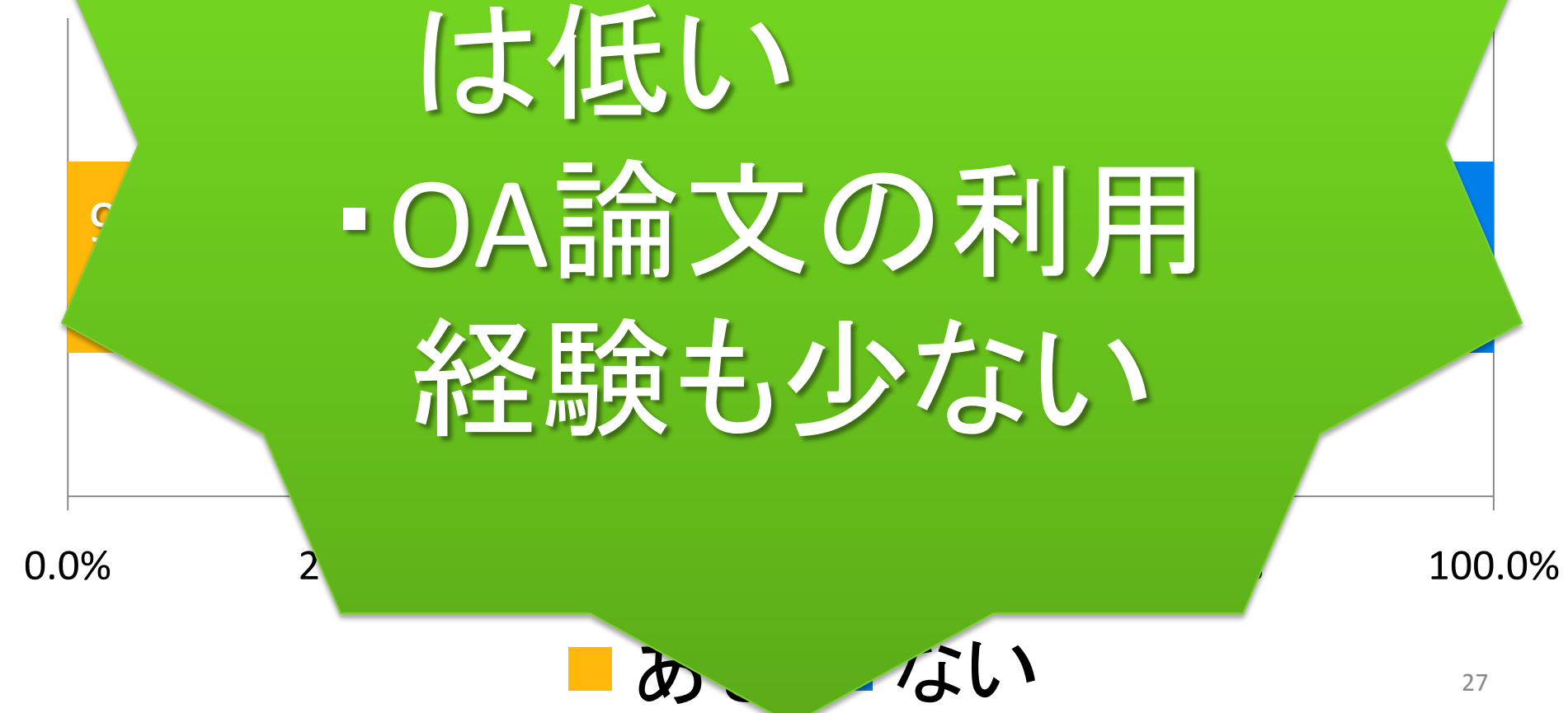


OA論文利用・全体

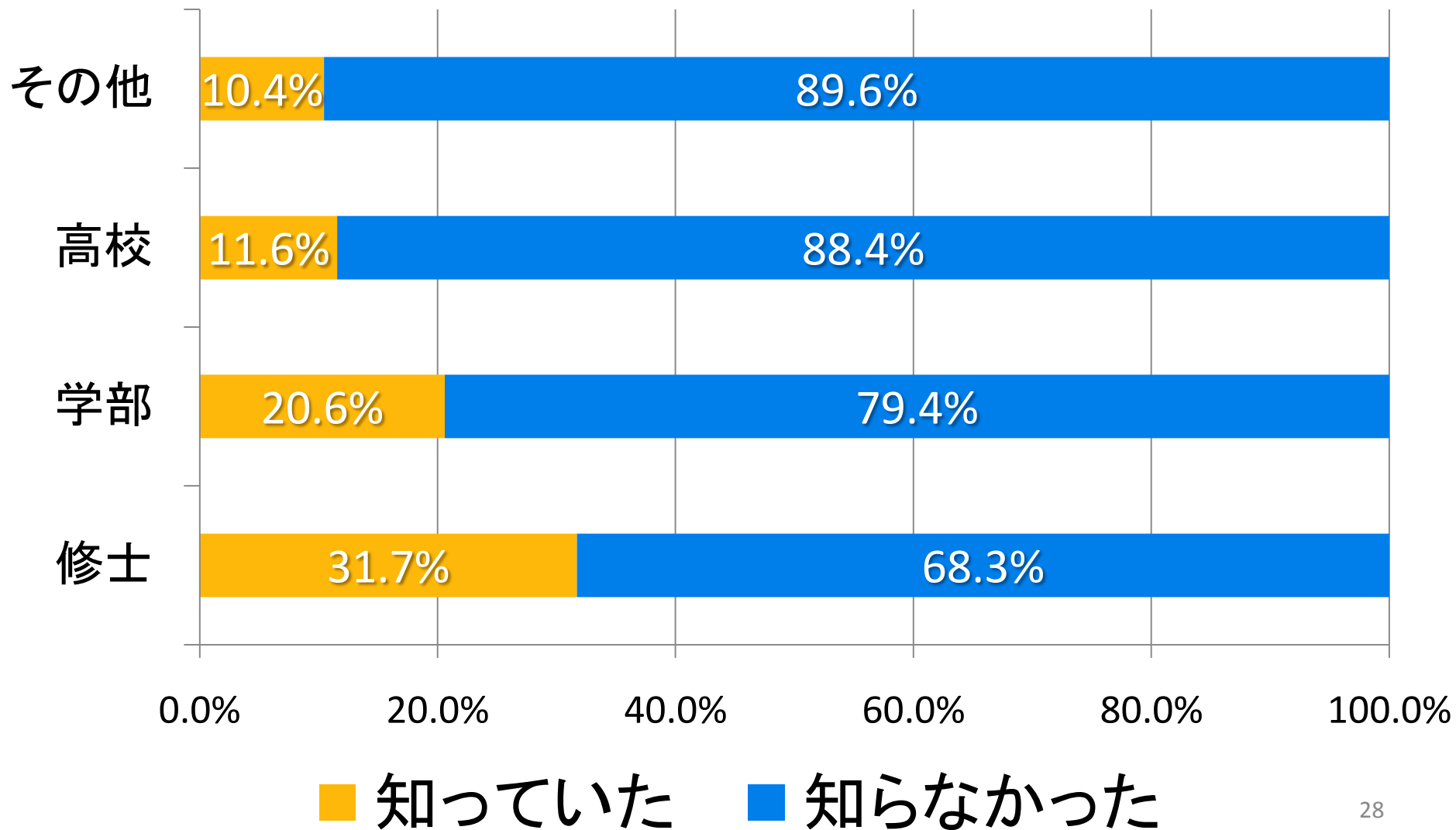
- 市民のOA認知は低い
- OA論文の利用経験も少ない

Q. オンライン論文

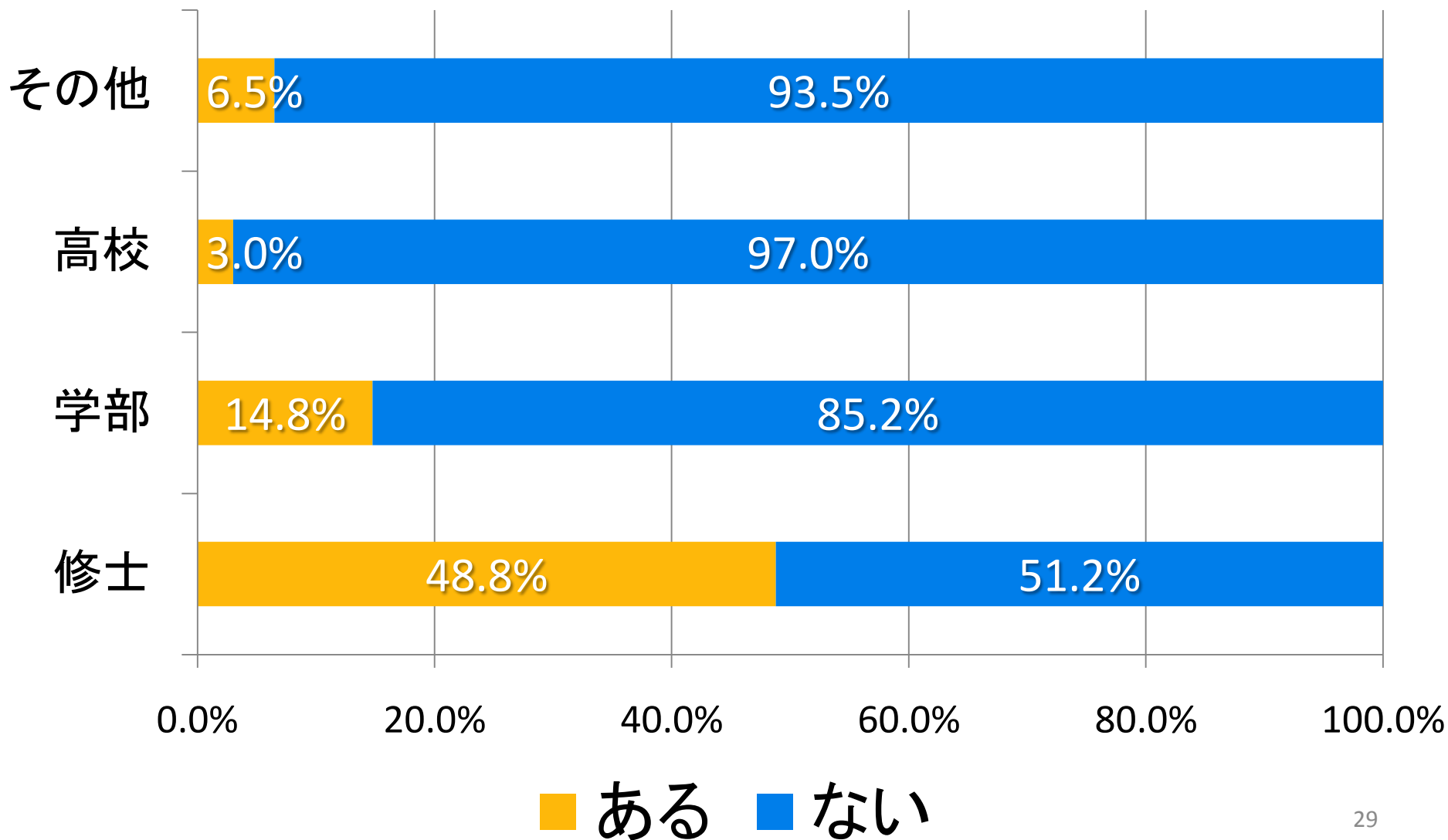
利用



OA認知：最終学歴別



OA論文利用：最終学歴別



結果

3.1 回答者の属性

3.2 OA認知とOA論文利用経験

3.3 OAに対する需要

3.4 OA化に興味のある分野

OA需要：全体

Q. OA論文が読めることが、あなた自身の生活の役に立つと思いますか？

	回答数	%
役に立つと思う	98	12.3%
どちらかと言えば役に立つと思う	343	42.9%
どちらかと言えば役に立たないと思う	276	34.5%
役に立たないと思う	83	10.4%

OA需要：全体

Q. OA論文が読めることが、あなた自身の生活の役に立つと思いますか？

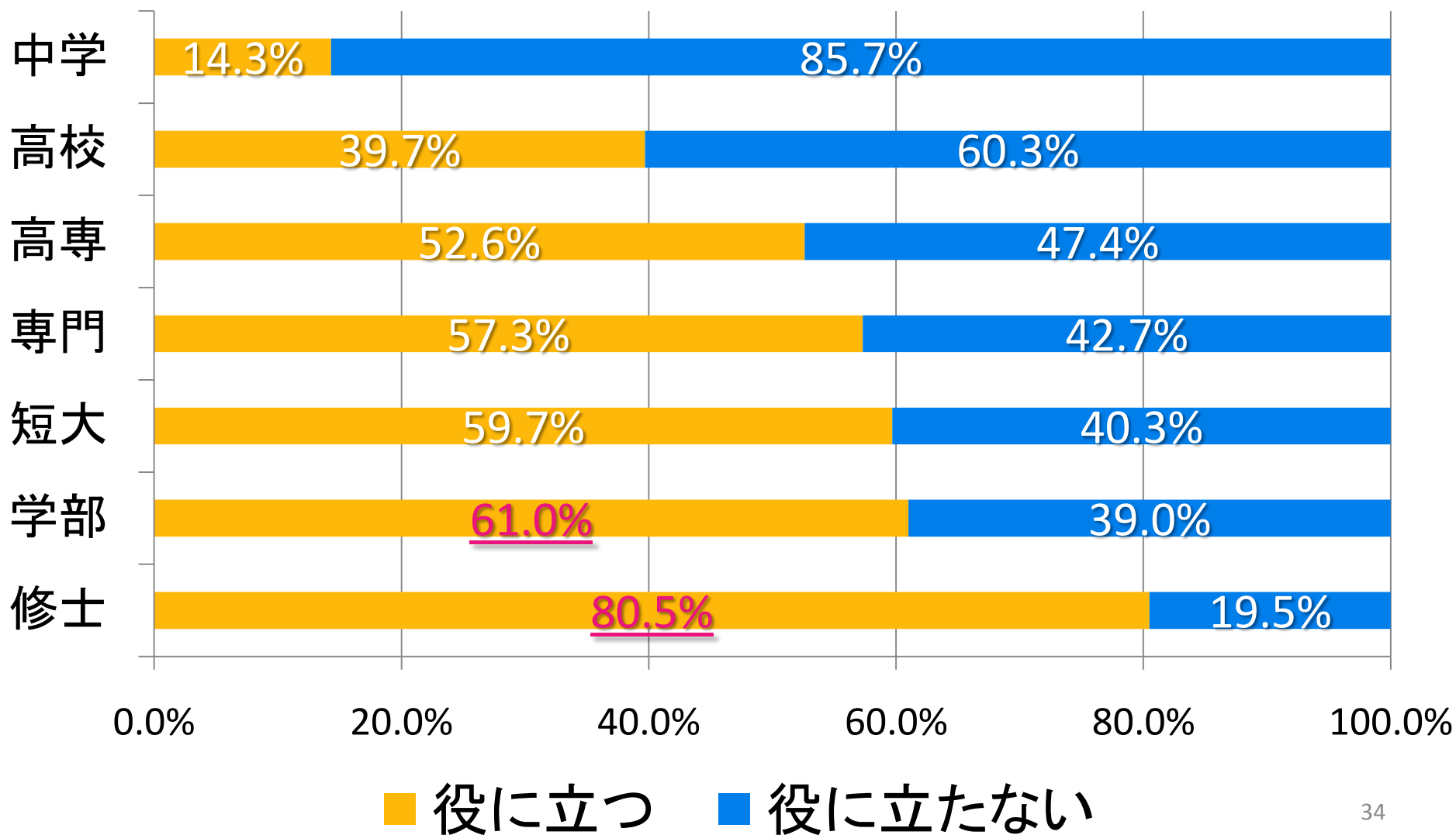
	回答数	%
役に立つと思う	98	12.3%
<u>どちらかと言えば役に立つと思う</u>	<u>343</u>	<u>42.9%</u>
<u>どちらかと言えば役に立たないと思う</u>	<u>276</u>	<u>34.5%</u>
役に立たないと思う	83	10.4%

OA需要：全体

Q. OA論文が読めることが、あなた自身の生活の役に立つと思いますか？

	回答数	%
「役に立つ」派： 55.1% (441人)	98	12.3%
	343	42.9%
「役に立たない」派： 44.9% (359人)	276	34.5%
	83	10.4%

OA需要：最終学歴別



OA需要：役に立つ理由

Q. OA論文が読めることが、あなたの生活にどのように役立つと思いますか？（複数回答・N = 441）

	回答数	%
書籍・雑誌・新聞記事に掲載されている情報よりも <u>専門的な知識を得るため</u>	<u>300</u>	<u>68.0%</u>
好奇心を満たすため	251	56.9%
日本の研究者がどのような研究活動を行っているかを把握するため	151	34.2%
学術論文を資料として利用するため	117	26.5%
著名人の書いた学術論文を読むため	67	15.2%
その他	14	3.2%

OA需要：役に立たない理由

Q. OA論文が読めることが、どうしてあなたの生活に役に立たないと思うのですか？（複数回答・N = 359）

	回答数	%
学術論文を <u>利用したことがないので、どのように役に立つのかわからない</u>	<u>181</u>	<u>50.4%</u>
学術論文に書いてあることは実際の生活とかけ離れているから	160	44.6%
学術論文には、専門用語が多く、読みづらいから	151	42.1%
学術論文の探し方がわからないから	53	14.8%
学術論文よりも、役に立つ資料が存在するから	46	12.8%
その他	14	3.2%

結果

3.1 回答者の属性

3.2 OA認知とOA論文利用経験

3.3 OAに対する需要

3.4 OA化に興味のある分野

興味のある分野：上位5位

1. 心理学 (182人、41.3%)
2. 医学 (141人、32.0%)
3. 情報学 (118人、26.8%)
4. 環境学 (113人、25.6%)
5. 薬学 (96人、21.8%)

興味のある分野：下位5位

1. 数学 (27人、6.1%)
2. 建築学 (39人、8.8%)
3. 法学 (45人、10.2%)
4. 看護学 (46人、10.4%)
5. 哲学 (50人、11.3%)

興味のある分野：女性上位5位

分野	女性 順位	女性 選択率	男性 順位	男性 選択率	全体 順位
<u>心理学</u>	<u>1</u>	<u>60.2%</u>	4	26.1%	1
<u>医学</u>	<u>2</u>	<u>39.3%</u>	4	26.1%	2
<u>教育学</u>	<u>3</u>	<u>31.6%</u>	<u>16</u>	<u>11.8%</u>	7
薬学	<u>4</u>	28.1%	10	16.7%	5
環境学	<u>5</u>	25.5%	6	25.7%	4

興味のある分野：男性上位5位

分野	女性 順位	女性 選択率	男性 順位	男性 選択率	全体 順位
<u>情報学</u>	7	20.9%	<u>1</u>	<u>31.4%</u>	3
<u>工学</u>	<u>23</u>	<u>4.6%</u>	<u>2</u>	<u>27.3%</u>	9
経済学	13	14.3%	<u>3</u>	26.9%	6
心理学	1	60.2%	<u>4</u>	26.1%	1
医学	2	39.3%	<u>5</u>	26.1%	2

その他の男女差の大きい分野

分野	女性 順位	女性 選択率	男性 順位	男性 選択率	全体 順位
<u>文学</u>	<u>7</u>	<u>20.9%</u>	<u>22</u>	<u>7.3%</u>	14
<u>物理学</u>	<u>24</u>	<u>2.6%</u>	<u>7</u>	<u>21.2%</u>	15
<u>言語学</u>	<u>6</u>	<u>21.9%</u>	<u>24</u>	<u>5.3%</u>	16
化学	22	6.6%	12	15.5%	19
看護学	12	15.3%	23	6.5%	21
数学	24	2.6%	21	9.0%	24

目次

1. はじめに: 研究背景と目的
2. 調査方法
3. 結果
4. まとめと今後の展望

まとめ(1)

- 市民のOA 認知は低い
- OA論文 利用経験も少ない
 - 浸透はしていない？

まとめ(2)

- 「OA論文が役に立つ」: 55.1%
 - 過半数ではあるが役に立たない派も
- 大卒、修士卒は役に立つ派が多い
- 「役に立たない」理由: 「論文を読んだことがないのでわからない」

- 大学進学率増＋
OAの進展で論文を読む
機会が増えれば、
「役に立つ」派が
増えるかも？

まとめ(3)

- 「専門的な情報を得るため」にOA論文が求められている
- 市民も書籍・新聞・雑誌より専門的な情報が欲しければ、論文を使う意欲がある

まとめ(4)

- OA需要の高い分野：心理学・医学
 - ここは先行研究と同様
- 男女別で大きな差
 - 男性：情報学、工学
 - 女性：教育学、文学

まとめ(5)

- OA需要が低いとされてきた分野・・・
 - 例えば物理学
 - 男性の需要は低くはない
 - 女性で全く需要がない
- 医学分野以外でも市民が興味を持つ分野はある！

今後の課題

- OA化需要の強度
 - 貰える機会はなんでも欲しい？
- 実際の利用可能性
 - 本当に使うのか？

参照文献

- 1) Kurata, Keiko et al. “Enhancing open access in the biomedical field,” *Proceedings of the American Society for Information Science and Technology*. Vol.47, No.1, 2010.
<http://dx.doi.org/10.1002/meet.14504701383>, (参照 2011-05-02).
- 2) 国立情報学研究所. “IRDBコンテンツ分析システム”.
<http://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>, (参照 2011-05-02).
- 3) Zuccala, Alesia. “Chapter 8 The lay person and open access,” *Annual Review of Information Science and Technology*. Vol.43, 2009, p.8_1-8_62.
<http://dx.doi.org/10.1002/aris.2009.1440430115>, (参照 2011-05-02).
- 4) 酒井由紀子「オープンアクセス化の進む医学論文が一般市民に読まれる可能性はあるのか」『オープンアクセス、サイバースカラシップ下での学術コミュニケーションの総合的研究 研究成果報告会発表要綱』2011, p.25-28.
- 5) Zuccala, Alesia. “Open access and civic scientific information literacy,” *Information Research*. Vol.15, No.1, paper426.
<http://informationr.net/ir/15-1/paper426.html>, (参照 2011-05-02).